

2025年度一般職大卒内定者
内定体験記

林野庁

はじめに

本資料は、林野庁への入庁を希望する皆様へ参考にしていただくために、2025年度林野庁一般職大卒内定者（2026年度新規採用予定者）から、勉強方法や採用面接対策、志望理由等を聞き取り、取りまとめた「内定体験記」です。

体験記は、大学等で林学関係を専攻していた方、他分野から林学を独学で受験された方、そして行政を受験された方の3つに分類しました。

体験記からわかるように、林野庁の内定者は様々な分野の学問に励みながら、多様な志を抱きつつ、それぞれに適した方法で試験に臨んでいます。また、林野庁でも同様に、多様な人材を求めています。

試験・面接対策に正解はありません。対策に励む中で不安になった時、先輩たちが工夫を凝らしている姿や奮闘する姿を参考にいただければ幸いです。

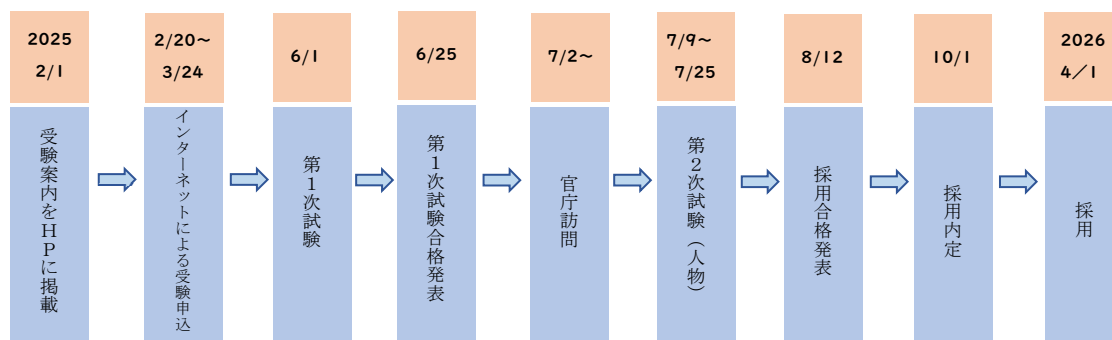
一般職試験（大卒程度）について

採用までに2つのプロセスがあります。1つ目は人事院が行う国家公務員試験で、2つ目は各府省庁で行う官庁訪問等の採用選考活動です。これらに通過することで晴れて国家公務員として採用されます。林野庁の官庁訪問は、職場の雰囲気を感じてもらうだけでなく、入庁するに当たっての疑問を解決する場（業務説明や事前面談）も設けており、その後に採用面接を行います。

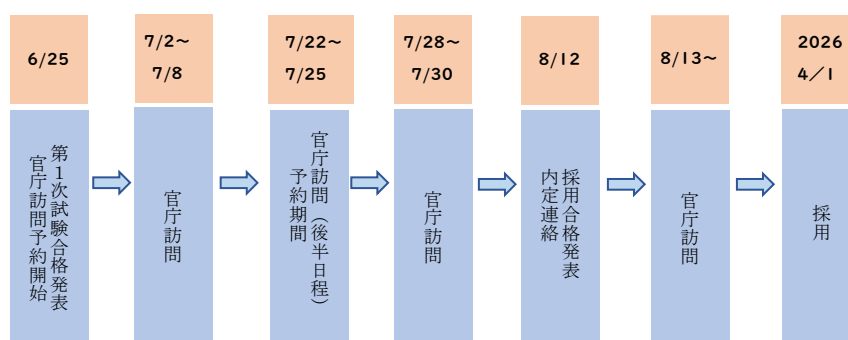
※技術系区分は林野庁本庁でのみ官庁訪問を実施します。行政区分の官庁訪問先は、本庁または森林管理局のいずれかご都合のよい場所を選べます。

（官庁訪問当日の流れは訪問先によって若干異なります）

2025年度試験日程（参考：「人事院国家公務員試験採用情報N A V I」より）



2025年度林野庁官庁訪問日程（参考）※官庁訪問は下記日程のいずれか1日に訪問していただきます。



学年	学士4年	試験区分	林学
専攻	島嶼生態学・森林生態学	併願先	県庁

1次試験の勉強方法	
基礎能力試験	大学3年生の夏頃から大学生協の公務員講座を受講して対策を行っていました。出題数が圧倒的に多く、苦手意識もあった数的処理を特に力を入れて取り組みました。最終的に数的処理の問題集は3周解いたことで平均くらいの正答率にまで持っていくことができました。また冬からは文章理解の対策にも力を入れ始めました。その他の科目については教科書に目を通す程度にして時間を割かないように心掛けました。
専門試験・専門記述試験	「森林・林業白書」と「森林・林業実務必携」や大学の授業資料を用い、5年分の過去問の解説ノートを自身で作成することで知識の定着を行いました。その後は「公務員・技術士の森林・林学の過去問と解説」というサイトで何度も知識のアウトプットを行っていました。また、学内の林業職公務員志望者を集めて定期的に対策会を開いて知識の共有を図りました。記述試験は特に対策していませんでした。

官庁訪問・採用面接の雰囲気、対策や注意点	
官庁訪問(採用面接以外の事前面談なども含め1日を通して)	面談・事前面談の形式はどちらも15分程度でした。待合室や面談は想像していた以上に和やかな雰囲気だったため適度にリラックスできました。特に面談では採用面接についての不安な点を聞いていただいたり、具体的な業務内容や配属希望の質問についても真摯に回答していただいたり、とてもサポートしていただきました。また、待合室でも志願者同士で森林の話をして盛り上がり良い雰囲気作りができました。
採用面接	形式は面接官3人と書記1人で15分程度でした。概ね面接カードの内容に沿って面接が進んでいきました。面接官の方が優しくかったので緊張しやすい私でも落ち着いて会話をすることができました。質問内容についてはサークル活動と研究内容について多く問われました。印象に残っている質問として「サークルでの経験や研究が今後どう活かせるか」は普段から意識して考えたことがあったため、より具体的にお話することができました。
面接カード(履歴書)の書き方	面接カードは学内の志願者同士で見せ合って内容を調整していきました。また、志望理由に経験談を組み込むことや面接カード全体に一貫性を持たせることを心掛けました。これを意識していたおかげで自分の人となり相手に伝わりやすくなったのではないかと思います。加えて、話したいエピソードが多かったため面接カードの節々にそれぞれ少しずつバランスよく組み込みました。

林野庁に決めた理由	森林が身近にある環境で生まれ育ったため元々森林に関する関心が高く、幼いころから自然を守り育てる仕事に就きたいと考えていました。調べているうちに林野庁の存在を知りインターンシップに参加しました。そこで林野庁では国有林の経営以外にも森林教育の推進、山村振興対策などの幅広い業務に携わることができることを学び、その点に大変魅力を感じました。また、官庁訪問時の林野庁職員の方々のお人柄も林野庁を選択する決め手となりました。
-----------	---

後輩へのアドバイス	可能であればインターンシップに参加することを強くおすすめします。インターンシップは数日かけて行われるため質問が多くできるとともに自分が働く姿が格段にイメージしやすくなります。このことが長期にわたる試験対策のモチベーション維持にも繋がります。面接についてはありのままの自分を見ていただきたいと思ったため、面接カードの丸暗記は避けて練習自体もほとんど行いませんでした。この方法は向き不向きがあると思うので慎重に検討していただければと思います。
-----------	---

学年	学士4年	試験区分	林学
専攻	植物生態学	併願先	林野庁総合職

1次試験の勉強方法	
基礎能力試験	<使用したもの>・過去問(5年分) ・問題集 ①取り寄せた過去問を本番通りの時間で解く。(行政文書開示請求書で検索。) ②解けなかった問題に似ているものを問題集から探して解く。 ③もう一度過去問の解けなかった問題に挑戦する。 一般職の基礎能力試験は時間が短いので、練習の時から必ず本番通りの時間で解き、解く順番や問題の取捨選択についても考えておくといと思います。
専門試験・専門記述試験	<使用したもの>・過去問(5年分) ・森林林業白書 ・森林林業実務必携 ①比較的直近の年代(1～2年前)の過去問1年分を白書などを見ながら解き、全ての選択肢に後から見てもわかるような解説をつける。 ②他の年代の過去問を解き、間違った問題について①と同じことをする。 ③上記を繰り返し、すべて解き終わったら何周も過去問を解いて知識を定着させる。 古すぎる過去問は現行制度と異なることが書いてあるので注意が必要です。

官庁訪問・採用面接の雰囲気、対策や注意点	
官庁訪問(採用面接以外の事前面談なども含め1日を通して)	一般職の官庁訪問の雰囲気は終始とても和やかで、インターネット上の体験談でよくあるピリピリしているものを想像していくと拍子抜けすると思います。待機部屋ではお菓子や飲み物を用意してくださっており、他の受験者や職員の方とお話することができます。面接は全部で3回あり、事前面談(面接官2名)→人事面接(面接官1名)→採用面接(面接官3名)の順に行われました。
採用面接	面接カードから大きく外れた質問をされることはないので、カードに書いたことならどこを深掘りされても大丈夫のようにしていくことが大切だと感じました。卒業研究の内容についてよく聞かれましたが、まだ研究が進んでいなかったのではどのような予定なのかを話しました。頷きながら話を聞いてくださり、とても話しやすかったです。
面接カード(履歴書)の書き方	嘘偽りなく素直な気持ちで記入しました。面接カードは大学のキャリアセンターで何度か添削していただき、不適切な言葉遣いや誤字脱字のないように気を付けました。 Excel入力でも手書き記入でも提出可能で、私は手書きで提出しました。 自分の書いた文章に納得できないときは、友人やAIにも相談しました。

林野庁に決めた理由	大学で中山間地域について学んでいくうちに、日本における森林、それを管理する林業は、木材生産のみならず国土保全、地域の文化などの基盤となっていることに気づいたことがきっかけでした。林野庁に所属し国有林の経営管理に携わることで、日本の森林・林業の向上に寄与したいと考えています。
-----------	--

後輩へのアドバイス	情報収集と準備が重要です。インターンや説明会など、気が付いたら募集期間が終了していたなどということがあるので、ホームページはこまめにチェックしましょう。他の公務員試験と併願する方は、スケジュール管理にも注意してください。同日に試験や面接があることもあります。また、過去問は請求書を送ってから手元に届くまで2週間～1か月程度かかるので、早めに取り寄せておくことをおすすめします。
-----------	---

学年	学士4年	試験区分	林学
専攻	木材材料学	併願先	県庁

1次試験の勉強方法	
基礎能力試験	3年の春から学校の公務員講座を主に用いて勉強していました。勉強範囲は広いので、講座の後に同じ内容の参考書を解くことを習慣づけて、限られた時間で無理なく復習することで忙しさと両立させていました。1次試験に本腰を入れ始めたのは4年の春休みからですが、専門試験に手間を取られていたので、苦手でかつ出題数が多い数学系に絞って勉強していました。
専門試験・専門記述試験	4年の春から過去問を主に用いて勉強していました。過去問を解いた後に森林・林業白書に目を通すことで、過去の出題傾向を探りどのような問題が出そうか考えながら読み込みました。過去問で分からない点は高等学校用の“森林科学”、“森林経営”、“林産物利用”という教科書と授業のレジュメを読むことで理解しようと努めました。また、見直したい箇所のページに付箋を貼っておいて、直前に見返していました。

官庁訪問・採用面接の雰囲気、対策や注意点	
官庁訪問(採用面接以外の事前面談なども含め1日を通して)	当日は 集合→質問面談→待ち時間約3時間→事前面談→採用面接→解散 の流れでした。質問面談では面談カードの内容について聞かれつつも、気になっていたことをたくさん質問させてもらいました。終始和やかな雰囲気でした。この時のおかげで将来のキャリアパスにより的確なイメージが持てました。事前面談でも質問されることが多いですが、質問面談と似た空気で緊張せずに受けることができました。どちらも面接カードに記入したことが頭に入っていれば問題ないかと思います。待ち時間が長く見えますが、実際は同じテーブルの人と会話したり面接の準備をしているとあっという間でした。
採用面接	採用面接では面接カードに沿った質問をいくつかされました。そのほとんどが事前に予想していた質問でした。1つだけ予想していなかった質問を聞かれましたが、面接官の方が丁寧に聞いてくださったため、落ち着いて返答することができました。全体を通して、にこやかでいることと、長くなりすぎないように簡潔に過不足なく返答することを意識しました。
面接カード(履歴書)の書き方	私は面接カードの様な自己アピールを書き上げるのはとても苦手なため、4年の春頃から自己分析し、どのような内容で書くべきか案を出してキャリアセンターの方に添削していただくことを何度かしていました。作文する際は内容にどこことなく一貫性を持たせることを意識して書いていました。私は面接カードはアイディア勝負だと思っているので早めに考えておく方がよいと思います。

林野庁に決めた理由	私が林野庁に決めたのは森林の良さを広く知ってもらい仕事に従事したかったからです。私は昔からよく森林関係のイベントに参加しており、そこから森林に興味を持ったことをきっかけに森林関係の学科に進学しました。そのため今度は逆に私が森林のことを広めるような仕事をしたいと思い、林野庁を志望しました。説明会や官庁訪問の時に職員の方の人柄の良さに触れ、ここしかないと思い入庁を決意しました。
-----------	--

後輩へのアドバイス	私は面接がとても苦手で、キャリアセンターやハローワークの方などの力を借りて何度も練習していました。官庁訪問直前の面接練習で、初めての方に少し厳しめのことを言われ、もうダメだと思いつつ本番の面接をうけましたが、結果無事に受かりました。面接には相性という要素もあるので、同様に面接や面接練習に弱気になっている人がいるならば、気に病みすぎない方がいいと思います。応援してます！
-----------	---

学年	学士4年	試験区分	林学
専攻	生態学	併願先	県庁・民間企業

1次試験の勉強方法	
基礎能力試験	対策を始めたのが3ヶ月前と遅くなってしまったため、配点の高い数的処理に力を入れました。問題集に載っている基礎問題を解き傾向をつかむことを大事にしました。試験では数的処理の問題は考えても分からない場合は時間をかけすぎず次の問題に進むことを意識しました。時間は足りなくなるので最後はとりあえず埋めることが大事だと思います。
専門試験・専門記述試験	過去問を3年分解きました。まずは何も見ずに解いてみて、その後間違えたところやポイントをノートにまとめ、過去問の問題も貼りつけて対策ノートを作りました。また「森林・林業白書」と「森林・林業実務必携」を読み込み、過去問と比べながら毎年出ているところ、今年注目されそうなところは特に力を入れて学習しました。

官庁訪問・採用面接の雰囲気、対策や注意点	
官庁訪問(採用面接以外の事前面談なども含め1日を通して)	私は午前の部の最後だったため10時集合、15時頃解散でした。採用面接前に2人の職員の方とお話しする機会と人事面接があり、疑問に思っていることに答えていただけたのが良かったです。待機中もとても和やかな雰囲気と同じテーブルに座ったいろいろな大学の学生と雑談したり、職員の方とお話しできて良かったです。
採用面接	面接は面接カードに沿って行われ、特に答えづらい難しい質問はされませんでした。卒論について興味をもていただき、いろいろな質問をされました。また、森林官になりたいと伝えたところ、面接官の方が森林官だったときのエピソードを聞かせてくださり、穏やかな雰囲気でした。面接カードに書いた内容はしっかり答えられるようにしておくべきだと思います。
面接カード(履歴書)の書き方	面接カードはExcel形式での提出でした。わたしは志望理由を力を入れて書きました。また卒論について書く欄もあり、そこで書いたことは面接の時に深掘りされやすいので、しっかり書いた方が良いと思います。

林野庁に決めた理由	幼い頃から自然が好きで、自然の中で働いて自然を守りたいと漠然と考えていました。また、大学で学んでいる森林分野の知識を最も活かすことが出来ると考えました。官庁訪問の際に職員の方とお話しして雰囲気が良いと感じたことも大きなきっかけです。いろいろな県に住んでその森林、人、特徴を知りたいという思いがあり国家公務員を志望しました。
-----------	---

後輩へのアドバイス	公務員試験は民間企業よりも決まるのが遅く、周り比べて焦ってしまうことがあると思いますが、公務員となり働く自分の姿をイメージして勉強に取り組むことが大切です。また不安を解消するために、忙しくはなってしまいましたが県の早期選考や民間企業を併願するのもおすすめです。面接の際は緊張してしまうと思いますが、林野庁で働きたい、という意思をしっかりと伝えようとするのが大切です。
-----------	---

学年	修士2年	試験区分	林学
専攻	森林生態学	併願先	地方上級

1次試験の勉強方法	
基礎能力試験	過去問を10年分、2～3周解きました。文章理解の国語は特に対策はしていません。地方上級を9月に受験し、ある程度の基礎はできていたため、12月末から本格的に国家一般職向けの対策を始めました。苦手だった数的処理と判断推理から取り組み、英文に毎日触れるよう心がけました。回答時間は常に意識していました。時事問題については、「速攻の時事」をスマホとタブレットに取り込んで、スキマ時間に見るようにしていました。平日は1日2～3時間、予定がない日は5～8時間ほど勉強していました。
専門試験・専門記述試験	過去の内定体験記を参考に、まず何も分からない状態で過去問を解きながら、白書と森林林業実務必携を用いて、間違っている箇所を正しい文章に直していく方法で、自分なりの「解説書」を作るというスタイルで進めました。最初は、問題文中の誤りを一つ一つ探すという作業に時間がかかり、1問に1時間以上かかることもありましたが、しかし、何度も繰り返すうちに徐々に例年の問題の傾向がつかめるようになり、効率よく取り組めるようになりました。

官庁訪問・採用面接の雰囲気、対策や注意点	
官庁訪問(採用面接以外の事前面談なども含め1日を通して)	待合室では1つのテーブルに5人ずつ座ってお菓子を食べ雑談をしながら過ごしました。時折、職員の方々から仕事内容などをお話していただき和気あいあいと過ごしました。私は10時集合15時頃の解散で、事前面談→昼休憩→人事面談→採用面接という流れで進みました。
採用面接	面接は3人の面接官から面接カードに沿った質問を受ける形で進み、雰囲気は穏やかでした。カード以外の質問は特になく、想定していた内容で落ち着いて答えることができました。第一印象を良くするため、入室時にはきはきとした挨拶と笑顔を心がけました。また、面接前に他の受験者や職員の方々と雑談したことで緊張がほぐれ、落ち着いた状態で臨むことができました。
面接カード(履歴書)の書き方	面接カードでは、面接官の方々に興味を持っていただけるよう、あえて抽象的に記述し、面接中に深掘りしていただけるよう工夫しました。特に意識したのは、自分の強みをどう林野庁の業務に結びつけられるかという点です。単なる自己PRではなく、「自分が林野庁に入ることによってどのように貢献できるのか」を明確に示せるよう心がけました。また、大学の就職アドバイザーに添削をお願いし、第三者の視点から表現や内容についてアドバイスをいただきました。

林野庁に決めた理由	私は、国有林といった自然豊かなフィールドで野生鳥獣被害対策に携わりたいと考えたからです。知床でのボランティア活動や研究活動を通じ、シカの過剰な採食により森林更新が困難になる現状を目の当たりにし、その重要性を強く実感しました。また、地域の方々と協力して被害対策に取り組んだ経験から、科学的知見に基づく施策だけでなく、住民や研究者等多くの関係者との合意形成を通じた行政の役割の大切さも学びました。林野庁で「国有林野事業の鳥獣対策の強化」や地域協議会の推進に関わり、実効性ある森林保全に貢献したいと考えたからです。
-----------	--

後輩へのアドバイス	修士1年のときに、早期選考を実施している地方上級試験を受験し、早めに内々定を確保することで、就職活動への焦りを払拭しました。受験自体が予行練習にもなるので、挑戦してみるのも一つの方法だと思います。また、専門試験(林学)の勉強方法については、普段の研究室業務がある中で時間が限られており、「この勉強スタイルで大丈夫なのか」「試験までに間に合うのか」といった不安が常につきまといました。ですが、全てを完璧にこなすのは難しいため、「まずは6割を目指す」ことを意識して勉強に取り組みました。試験までの道のりは長いですが、完璧を目指すのではなく、自分のペースで最後まで粘り強く頑張ってください。
-----------	--

学年	修士2年	試験区分	林学
専攻	進化生態学	併願先	民間(林業系)、森林総合研究所

1次試験の勉強方法	
基礎能力試験	教育実習中に1次試験があったため、特に対策は行いませんでした。そのため、数的処理や資料解釈などの比較的得意な問題から優先的に回答した後、その他の問題について時間をかけて考えました。
専門試験・専門記述試験	私は、森林生態学以外の専門知識がなかったため、”林業業務”に関する一般書籍や「森林・林業白書 概要」を中心に学習をしました。選択問題については試験の半月前ごろに過去問2年分を解き、間違えた選択肢についてネットで調べながら対策を行いました。記述試験については、「森林・林業白書 概要」の内容を把握しておけば、問題なく回答できるかと思います。

官庁訪問・採用面接の雰囲気、対策や注意点	
官庁訪問(採用面接以外の事前面談なども含め1日を通して)	官庁訪問は、提示された日程の最も時間の早い枠で参加しました。待合室では、面接順の近い他の受験者の方と話しながらリラックスして過ごすことができました。事前面接では、面接カードを中心に、採用面接の練習のような形式でやり取りをする機会がありました。また、事前面接や待機室で、職員の生活やキャリアデザインについてかなり詳しく伺うことができました。併願先と迷っている方は、これらの機会に業務内容などについてしっかり伺うとよいと思います。
採用面接	面接カードに書かれている内容に基づき、面接官の方から3つ程度質問をされました。面接は終始話しやすい雰囲気だったため、落ち着いて回答することができました。面接時間15分は想像以上に短いため、その場で考えるだけでなく、事前に質問を想定し自身の主張を整理しておくとうよいと思います。
面接カード(履歴書)の書き方	文章を記入する欄がいくつかに分かれていますが、面接カード全体のコンセプトを定め、すべての文章が一貫したロジックで展開できるよう注意しました。面接カード記入例には”フォントや色、フォントサイズに指定はない”旨が示されていたため、文字サイズは少し小さくし、改行などにより視覚的に読みやすい構成となるよう気を付けました。

林野庁に決めた理由	私が林野庁を志望した理由は、生物多様性をはじめとした環境保全に取り組みたいと考えたためです。併願先との選択の際は”より現場に近い点”や、”赴任先の地域に根ざした生活ができる点”を重視しました。特に、中部山岳域をはじめとした国立公園の管理・維持に携わる機会がある点は、山好きとしてとても魅力的に感じています。
-----------	---

後輩へのアドバイス	私は、人事院の国家一般職試験を学部4年生のころに受験し、最終合格の資格を保持した状態で院進しました。そのため、他の進路と比較、検討を行う時間をしっかりとったうえで進路決定することができました。ある程度就活の負担を分散させることが可能ですので、理学系で、研究や民間企業への就活と試験勉強を同時並行させることに不安を感じている方にはぜひ検討してみてください。
-----------	---

学年	修士2年	試験区分	林学
専攻	森林管理学	併願先	県庁

1次試験の勉強方法	
基礎能力試験	数的推理・判断推理・社会科学の3科目を重点的に勉強しました。特に数的推理と判断推理は点数配分が大きいので、「1問も落とさない」くらいの勢いで臨みました。使用した参考書は「過去問500」です。この科目に関しては、地方上級と比較しても難易度・形式ともに大きな差はないと感じたので、どちらもやることをお勧めします。社会科学については、2024年度から大幅な変更があった影響で必ずしも力を入れる必要はないかもしれませんが、ほかに公務員試験を併願する予定がある場合はやって損はないと思います。
専門試験・専門記述試験	過去問と「森林・林業白書」及び「森林林業実務必携」を併用して勉強しました。特に過去問についてはある程度似た問題が出るので、5年分程度は解くことをお勧めします。専門択一と専門記述はともに上記の参考書等で対策ができますが、記述を書くことに慣れていない方は、論文の書き方について解説している参考書も読み込むことで落ち着いて本番に臨めると思います。

官庁訪問・採用面接の雰囲気、対策や注意点	
官庁訪問(採用面接以外の事前面談なども含め1日を通して)	13:15集合、16:00頃終了でした。採用面接の実施順にもよるので、終了時刻は人によって違うと思います。 林野庁の官庁訪問は和やかな雰囲気であるとは聞いてはいましたが、予想以上にリラックスすることができたと感じます。待機時間では用意していただいたお菓子を頂きながら他の訪問者と交流を深めることができました。採用面接の前に2回職員の方との個別面談があったので、疑問点・不安点があればそこで解消しておくことができます。
採用面接	面接は面接官の方が3人、書記の方が1人で行われました。基本的に面接カードに沿った質問をされるので、その内容を自分の口から言えるように練習することが重要です。やはり面接は「慣れ」が大切だと思いますので、ハローワークや大学のキャリアサポートを積極的に活用することをお勧めします。ですが、仮に本番で極度に緊張してしまっても、面接官の方は穏やかにかつ熱心にこちらの話を聞いてくださいます。自分の熱意をしっかりと伝えることを意識して、頑張ってください。
面接カード(履歴書)の書き方	研究テーマ・入庁後にやってみたい業務・配属希望順位など、面接カード全体に一貫性を持たせることを意識して記入しました。また、あえて詳細に書かないことで質問される内容の予想がつきやすくなるので、余裕をもって臨めると思います。 ファイル形式での提出になるため、データ型の証明写真が必要です。私はそれまでデータ型の写真が必要なかったということもあり、直前になって急いで写真を撮りに行ったので、皆様はお気を付けください。

林野庁に決めた理由	もともと、自然・森林・動物が好きだったため、漠然とそれらにかかわることができる仕事がしたいと考えていました。実際に林野庁の業務内容について調べる中で、現場作業を通じてそれらの保全に携わることができることを知り、志望しました。また、国有林野管理を通した国土の保全という、国民の皆様が生活していくうえで必要不可欠な仕事ができるという点も魅力に感じました。
-----------	---

後輩へのアドバイス	公務員試験は非常に長丁場に及ぶ試験ですので、体調管理には気を付けてください。試験当日に体調を崩してしまうと、本来受かるはずのものもダメになってしまいます。それは本当にもったいないので、勉強するときは勉強する、休むときは休む、というようにメリハリをつけて頑張ることが一番効率が良く、長続きするやり方だと思います。そして、そのように頑張ってきた経験は自信にもつながります。絶対に無駄にはなりません。第1志望に受かることができるよう、心から応援しています。
-----------	---

学年	学士4年	試験区分	林学
専攻	農学	併願先	市役所

1次試験の勉強方法	
基礎能力試験	TACの教養区分のみに申し込み、配布される問題集を解いて勉強しました。文章理解については大学の受験勉強で身に付けた力で十分だったので、問題集を数問解くだけで傾向がわかれば大丈夫だと思います。数的処理は、配分が高いことに加え、知っていれば早く解ける問題も多くあるため、ほとんどの時間を数的処理に使いました。
専門試験・専門記述試験	私は農学専攻なので、林学の知識がほとんどありませんでした。林学の参考書などは出回っていないので、内定体験記によく書かれていた「森林・林業白書」と「森林・林業実務必携」で知識をつけました。森林・林業白書は林野庁のホームページからダウンロードすることができます。実践についても過去問は出回っていないため、人事院に過去問を請求しました。勉強し始めたのは3月から4月くらいだったと思います。

官庁訪問・採用面接の雰囲気、対策や注意点	
官庁訪問(採用面接以外の事前面談なども含め1日を通して)	とても和やかな雰囲気です。控室ではお菓子やジュースを用意してくださっていて、他の受験者の方と話しながら待機します。本面接の前に事前面談があり、不安要素を解消できます。待機時間は長いですが、職員の方もたくさん話しかけてくださるので緊張をほぐすことができます。
採用面接	面接官は三人です。面接カードの上から順番に関連した内容が質問されます。そこまで深掘りされるわけではないので、書いた内容について正直に話すことができれば大丈夫です。
面接カード(履歴書)の書き方	詳しい内容は面接で聞かれた場合に話せば良いので、分かりやすく簡潔に書く方が面接官の方も読みやすく良いと思います。そこから質問されるため、嘘を書くと面接時に失敗してしまうと思います。当日の控室でも、正直に話していれば大丈夫だから！と職員の方に言っていただきました。本当のことでアピールできる内容を書きましょう。

林野庁に決めた理由	自然が好きなことと、大学の授業で取り扱った樹木学で森林のすばらしさに感動したことで、興味を持ちました。環境省とも悩みましたが、森林に焦点を当てたい場合は林野庁がおすすめだと大学の教授に進めてもらい、林野庁に決めました。
-----------	---

後輩へのアドバイス	林学についてほとんど知識がない私でも、1から勉強して間に合いました！同じような方はとても不安だと思いますが、好きなことであれば頑張れます！応援しています！
-----------	---

学年	修士2年	試験区分	林学
専攻	人類学	併願先	環境省、博士後期課程進学

1次試験の勉強方法	
基礎能力試験	3ヶ月、市販の過去問題集を解きました。文章理解は一周し、総合職の問題も解きました(オーバーワークでした)。どういう選択肢が間違いになるのか分析しました。時事問題は特に何もしませんでした。苦手だった判断・数的推理、資料解釈は4周しましたが、本番で焦り、思うように得点できませんでした。推理・解釈・時事問題は、必ずしも努力量に見合った結果が出るとは限りません。苦手な人は、無理に取り組もうとせず、文章理解や専門試験でカバーするのも一つの手だと思いました。
専門試験・専門記述試験	4ヶ月の独学でした。過去問数年分をテーマ順で並び替え、『教科書(後述)』『森林・林業実務必携』などで調べながら解くのを4周しました。平行して『森林・林業白書』を精読し、過去問頻出の数字や法律をマークしたり、「普及」「促進」といった行政立場の用語(記述に使える)を集めたりしました。白書の節ごとに動向、課題、政策等をまとめたメモを作り、空で説明できるよう隙間時間に見返しました。生成AIで記述問題の予想や解答を作成し、見えそうな表現や、白書との相違点などを分析しました。

官庁訪問・採用面接の雰囲気、対策や注意点	
官庁訪問(採用面接以外の事前面談なども含め1日を通して)	遅れたくなかったので当日は早めに東京方面に向かいました。集合時間まで2時間ありましたが、銀座や霞が関のカフェで休み、頭の中で面接の予行練習をしていました。外はとにかく暑く、なれない服や靴と相まってつらかったです。官庁訪問では、2度の事前面談があったり、休憩中に職員の方々が話しかけてくれたりと、和やかな雰囲気作りがされていました。また、学生同士で話が進むうちに自然と緊張感は和らぎました。
採用面接	事前に、林野庁総合職の『内定者の声』から、過去にどんな質問がされたのかを拾い上げました。また、自分の面接カードを家族や生成AIに見てもらい、質問されそうな事柄を訊いてリストアップしました。それぞれに対して、どう答えるかを前もって考えました。採用面接本番では、まず、志望動機や、どんな業務に携わりたいか、どのような研究をしてきたかなどについて一通り聞かれました。その後、面接カードに沿っていくつか質問されました。
面接カード(履歴書)の書き方	ネタはPCと対峙しても出てこないもので、生活の中で思い浮かんだらその都度書きためてゆくとよいと思います。私は一次試験後に東北・北海道を一人旅行し、国有林や国立公園を改めて歩きながら思索しました。例えば、森林・林業との関わりを幼少期から遡ったり、「数ある仕事の中でなぜ林野庁か」「数ある学生の中で私のセールスポイントはなにか」等を考えました。また、志望動機や携わりたい業務、大学での研究・学びをどうリンクさせるかをも思索しました。見えそうなのはフィールドノートに残しました。

林野庁に決めた理由	趣味の自然観察で利尻島から西表島まで、全国各地を訪れましたが、行く先々に国有林があり、その動植物や自然に心が動かされました。こうした魅力的な林野と関わりながら仕事ができる林野庁に惹かれました。また、説明会や官庁訪問で感じた職場の和やかな雰囲気にも後押しされました。
-----------	--

後輩へのアドバイス	『森林・林業実務必携』に代わるものとして、林学初心者(とくに文系)には農業高校用の『教科書』をおすすめします。私は、文部科学省執筆の、森林経営、森林科学、林産物利用の3冊をメインの参考書とし、不足部分だけ『森林・林業実務必携』で補いました。一冊300ページと、量がありますが、その分、イラストや写真が多くてイメージがわかりやすく、書き込む空白もあります。キーワードが太字になっているので重要箇所が目につきやすいです。高校や大学の理科の知識がなくても理解できるよう、わかりやすくかみ砕いた説明なので、頭に残りやすいです。
-----------	---

学年	既卒	試験区分	林学
専攻	建築・住環境デザイン分野	併願先	なし

1次試験の勉強方法	
基礎能力試験	過去問を解き、苦手分野については仕事の隙間時間など少しの時間を見つけて対策するようにしました。また時間配分が重要であると聞いたので、当日も時間管理を意識しました。解ける問題を優先して取り組み、時間がかかりそうなものは後回しにするなどして確実性を重視して試験に挑みました。
専門試験・専門記述試験	林業の実務は経験していましたが、専門的な林学については学んだことはありませんでした。そのため内定体験記を参考に過去問を解きつつ、「森林・林業白書」と「森林・林業実務必携」を読み、わからないことはインターネットで調べながら知見を深めました。

官庁訪問・採用面接の雰囲気、対策や注意点	
官庁訪問(採用面接以外の事前面談なども含め1日を通して)	官庁訪問は、基本的に平日にあるので仕事を調整して予約しました。社会人ということもあり、場違いではないのかと懸念していましたが、お会いしたすべての職員の方はとても優しく印象でした。2回の事前面談、採用面接も終始和やかな雰囲気、あまり緊張することなく終えることが出来ました。
採用面接	提出した面接カードの内容に沿った質問が中心でした。時間は約15分程度で面接官は3人で各々2つ程度の質疑応答を行いました。事前面談に続き、終始和やかな雰囲気をつくっていただいたおかげもありリラックスして対応することが出来ました。質問の内容は面接カードが中心になるので、自信を持って自分の言葉で書いていれば、落ち着いて思いを伝えることが出来ると思います。
面接カード(履歴書)の書き方	内定体験記を見て、官庁訪問では面接カードが中心になっていることを知り、分かりやすく簡潔に質問しやすい内容になるよう心掛けました。また第三者に見てもらうことで私の思いが伝わる構成・文章になっているかを確認しました。

林野庁に決めた理由	祖父と父が大工だったということもあり、高校・大学とその影響で建築分野を中心に学び、一般企業に就職しました。家づくりに携わっていく中で国産の木材を使用する事は当たり前でない現状を実感し、日本の林業に興味関心を持つようになりました。その後転職し、林業について実務をこなしていく中で、林野庁の存在を知り、より広い視点で公的立場から森林環境に携わることで日本の木を守っていきたいと考えたからです。
-----------	--

後輩へのアドバイス	私は、一般企業の会社員として仕事をしながら試験を受験しました。私が大事にしたことは、自分自身にあった勉強方法などを確立することでした。それらを見つければ、合格という目標に向かって進んでいくのみとなるので気が楽になり、試験に挑むことが出来ました。 社会人からの受験になると、仕事と私生活、試験勉強のバランスを取る事が大変だとは思いますが。その苦悩の先には良い結果が出ると思っていますので、頑張ってください。
-----------	---

学年	既卒	試験区分	行政
専攻	公共政策	併願先	地方上級
官庁訪問先	林野庁本庁		

1次試験の勉強方法

基礎能力試験	数的処理が苦手だったので、毎日問題を解くようにしていました。苦手な問題は繰り返し解いて解法を覚えるようにしました。また、本番では午前中に基礎能力試験が行われるため、数的処理は午前中に勉強するようにしていました。2月頃からは「公務員試験の教科書 時事本」という時事対策本を購入し、空いた時間に読んでいました。本番では分からない問題は飛ばし、確実に取れる問題に時間をかけるようにしました。
専門試験・専門記述試験	私は法律科目と学系科目を中心に勉強しました。法律科目は過去問を繰り返し解いて出題傾向を把握するようにしました。特に民法は複雑で分かりづらいため、図を書いて整理すると解きやすかったです。学系科目は学者名と学説のキーワードをセットにしたり、語呂合わせを考えて覚えるようにしました。

官庁訪問・採用面接の雰囲気、対策や注意点

官庁訪問(採用面接以外の事前面談なども含め1日を通して)	最終合格発表後に官庁訪問の機会を設けていただき、採用面接の前に業務説明と事前面談が行われました。参加者が私1人だったため、最初は緊張しましたが、職員の方の和やかな雰囲気のおかげで、リラックスして官庁訪問に臨むことができました。また、職員の方に質問できる時間があるため、あらかじめ気になることや、質問したいことを考えておくと思いいます。
採用面接	面接は面接官3人と受験生1人で行われました。面接カードの内容に沿って志望動機ややりたい仕事などの質問がされました。初めは緊張しましたが、終始穏やかな雰囲気であったため、落ち着いて質問に答えることができました。面接では面接官の目を見て、聞かれたことには正直に自分の言葉で話すことを意識しました。
面接カード(履歴書)の書き方	面接カードはExcelで入力する形式でした。面接カードに沿って質問がされるため、面接で話したいことをイメージして書くことを心掛けました。また、結論から書くことや分かりやすく簡潔に書くことを心掛けました。

林野庁に決めた理由	世界遺産の清掃ボランティアに参加した際に、美しい景観を未来に残すための維持管理が重要であることを実感し、日本の豊かな自然環境の保護に関心を持つようになりました。官庁について調べる中で林野庁では、森林保全や管理、災害対策など様々な面から国民の生活を支えることができる点に魅力を感じたため、志望いたしました。また、官庁訪問時の職員の方々の人柄に惹かれ、入庁を決めました。
-----------	---

後輩へのアドバイス	私は大学時代に公務員試験に失敗してしまいましたが、今回再受験して合格することができたので、既卒であることや経歴で不利にはならないと思います。それより自信を持って自分をアピールすることが大切だと思います。公務員試験は長丁場で、筆記試験や面接など不安を感じることが多いですが、周りとは比べ過ぎず適度に息抜きをしながら最後まで頑張ってください。応援しています！
-----------	---

学年	学士4年	試験区分	行政
専攻	生物工学	併願先	県庁、他官庁
官庁訪問先	森林管理局		

1次試験の勉強方法	
基礎能力試験	公務員試験の専門学校で配布された教材を使って一通り学習しました。文章理解は得意で、数的処理もある程度はできていたので、毎日1,2問だけ解いて感覚を忘れないようにしていました。英語と図形がとても苦手だったのですが、試験前3か月はあまり時間を割かずに、解き方を軽くさらい、あとは当日の勘に任せていました。私の場合、研究室が忙しく、なかなか時間が取れなかったため、苦手科目を克服するというよりも、得意科目で点数を取りきることに重点を置いて学習を進めました。
専門試験・専門記述試験	大学3年生の春から専門学校に通い始めました。3年生は学校の課題や実験に追われ、学習が進んでいませんでした。そのため、本格的に勉強を始めたのは試験の半年前からです。参考書一冊を徹底的に解きました。進度が周囲と比べて遅かったのも、模試も散々な結果で落ち込みましたが、参考書一冊を完璧にすることを意識し、地道に積み重ねていくと、自然と流れもつかめたり、問題のポイントを理解できるようになりました。今からでは遅いと感じても、あきらめないことが大切だと思います。

官庁訪問・採用面接の雰囲気、対策や注意点	
官庁訪問(採用面接以外の事前面談なども含め1日を通して)	私は、前半日程に予約をしていたのですが、暑さと疲労から体調不良になってしまい、後半日程に変更していただきました。快く対応していただき、不安な中でしたが、体調を整えて安心して当日を迎えられました。控室に通された後、説明会のときよりもより詳しい情報が盛り込まれた映像を見せていただいたり、説明をして頂きました。林野庁に入庁後の仕事や環境をより詳細に知ることができ、安心するとともに、ここで働いてみたいという気持ちが強くなりました。
採用面接	緊張で頭が真っ白になってしまい、志望理由を上手く話すことができませんでしたが、目を見てきちんと話を聞いてくださったおかげで、徐々に緊張が収まりました。自身の言葉で、簡潔に伝えることを意識して話すように心がけました。林学のことについて全く知らない状態でしたが、質問内容は学生生活についてが中心でした。15分程度で終了しましたが、意外とあっという間に終了したように感じました。
面接カード(履歴書)の書き方	説明会での資料を参考に、どんな仕事をしたいのか、なぜ林野庁なのかという志望動機の部分に時間をかけました。自己PRなどは自身の経験を振り返りながら、志望動機との関連性も含めて記入しました。記入後は他の人に添削してもらい、伝わりやすい文章にすることを心がけました。私は、併願先の書類提出が重なり、時間があまり取れませんでした。志望動機以外は併願先と内容が似ている場合が多いため、自身の学生生活を振り返って「ガクチカ」の型を作っておくと記入しやすいと思います。

林野庁に決めた理由	3年生の時のオンライン説明会に参加した際に、林野庁に興味を持ちました。他官庁にもお声がけいただき、最後まで悩んでいましたが、官庁訪問で初めて森林管理局を訪れた時に、木材がふんだんに使われているとても暖かな雰囲気の庁舎や、展示で紹介されていた取り組み事例を見て、とてもワクワクしました。そのワクワクが忘れられず、林野庁を選びました。また、大学で学んできた自然科学の知識も活かすことができる仕事に就きたいと考えていました。林野庁では、行政区分で受験しても技術系業務の職員として活躍ができるという部分にも惹かれました。私の性格上、デスクワークだけよりも直接自然とかかわることができる仕事のほうが向いているだろうと思い、林野庁に就職を決めました。
-----------	---

後輩へのアドバイス	何事もあきらめずに、まずはやってみることと、無理をしすぎないことの2点が大事だと思います。模試の成績が悪く、何度もあきらめようかと思いましたが、最後まで続けた結果、林野庁に内定をいただくことができました。民間の友人たちが合格をしている中、学習を続けなければならない、苦しいことも多いと思いますが、無理をしすぎず継続することを心がけるとよいと思います。官庁訪問期間に体調を崩した経験から、体調管理をきちんとし、体調が優れない時は休息をしっかりとること、気持ちが続かなくなったらいったんリフレッシュすることをお勧めします。趣味やリラックスする際のルーティンを作っておくと息抜きしやすいのでおすすめです。
-----------	---

学年	学士4年	試験区分	行政
専攻	社会科学	併願先	裁判所事務官
官庁訪問先	森林管理局		

1次試験の勉強方法

基礎能力試験	出題数が多い数的処理に重点をおいて勉強しました。学内の生協講座で使用する問題集や、国家一般職の過去問題集を中心に取り組みました。基礎能力試験は時間勝負なので毎回時間を測って解きました。また、専門試験とも共通点が多い社会科学の過去問を解いたことは得点に繋がったと思います。時事問題は専用のテキストを使用しましたがあまり内容から出題されず、日頃からニュースを観ることの方が重要だと感じました。
専門試験・専門記述試験	法律科目を中心に、講座動画を見た後は生協講座の問題集をできるだけ多く解くことに注力しました。問題を解いたあと、解けなかった問題に印をつけて二周目はその問題を解く方法が効果的でした。経済学は点数が安定しやすかったミクロに重点をおいて計算問題を解いてパターンを覚えめました。当日は他に教育学、心理学、英語を選択しました。教育学は範囲が狭く人物名を覚えるだけでいいのでお得な科目だと思います。

官庁訪問・採用面接の雰囲気、対策や注意点

官庁訪問(採用面接以外の事前面談なども含め1日を通して)	森林管理局に官庁訪問に伺い、参加者は私含めて5人でした。面接前に業務説明と質疑応答の時間があり、そこで更に業務理解を深められたと思います。そのまま一人ずつ面接室に向かい、自分の番まで待機する形でした。待ち時間中も和やかな雰囲気でお話し頂き、過度に緊張せず面接に臨むことができました。
採用面接	面接は1人ずつ行われ、面接官は3人でした。面接カードに沿って、志望動機や学生時代の経験について聞かれました。あまり複雑な質問はされず、こちらも素直に自分の伝えたいことを答えることができました。学内で何度か面接練習をしたことで質問にどう答えるかシミュレーションできて良かったと思います。
面接カード(履歴書)の書き方	面接本番を想定しながら、質問に対する答えの軸となったり、補完できるような文になるよう意識して作成しました。説明会に参加した時のメモを参考にしたので、説明会で感じたことや質問内容をしっかり記録しておく面接カードが書きやすいと思います。

林野庁に決めた理由	文系の私でも、自然に関わる仕事に現場職で関わる点が一番大きいです。治山業務や森林環境教育など、幅広い業務があることも魅力に感じました。
-----------	---

後輩へのアドバイス	私は面接が苦手でかなり苦労しました。今思うと、学内の面接練習だけでなく、興味が少ないところでも民間企業の面接など受けてみると良かったと思います。試験勉強がしんどくなることもあると思いますが、体調と睡眠を大事に、たまには自分にご褒美をあげて乗り切ってください！
-----------	---

学年	学士4年	試験区分	行政
専攻	数学	併願先	県庁
官庁訪問先	森林管理局		

1次試験の勉強方法

基礎能力試験	数的処理が出題数が一番多いので、力を入れて勉強していました。講座の授業動画を見て、テキストを繰り返し解き、分からないところがあれば、動画を見返して復習していました。模試で見たことがあるような問題がよく出たりすることがあるので、模試はしっかり復習しておくと思います。基礎能力試験は時間配分が大事なので、どこに時間をかけるかを模試などを通して、考えていくと本番で焦らずに出来ると思います。
専門試験・専門記述試験	専門試験も講座の授業動画を見て、問題集を繰り返し解くということをしていました。量が多く、範囲も広いためいつまでにテキストをどのくらい進めるかなどを計画して勉強していました。はじめは、どう勉強していくといいかが分からなかったのですが、色々な方法を試していき、自分なりの勉強方法を見つけていきました。勉強方法は色々ありますが、自分が一番いいと思ったやり方で勉強するのが大事だと思います。

官庁訪問・採用面接の雰囲気、対策や注意点

官庁訪問(採用面接以外の事前面談なども含め1日を通して)	まず最初に控え室で業務説明がありました。その後は、面接まで待ち時間だったのですが職員の方が作ったカードゲーム(ZORING)があり、受験者で集まってそのゲームをしていました。そのおかげで待ち時間を楽しく過ごせて、緊張もほぐすことが出来ました。職員の方も堅い雰囲気はなく、親しみやいと感じました。
採用面接	面接は15分程度で、3人の面接官がいました。主に面接カードに沿って行われました。面接カードに書いたことは深掘りされても困らないように、対策していきました。また転勤のことや業務についての不安がないかについても聞かれました。面接官がうなずいてくれるため、落ち着いて話すことができました。面接練習は講座の講師の方や生協の方と練習しました。
面接カード(履歴書)の書き方	面接カードはExcelで入力でした。誤字脱字がないように気をつけ、文章は生協の方に添削してもらいました。他の人に見てもらおうことで自分では気づかないところに気がつけるので大事だと思います。スペースに限りがあるので、なにをアピールしたいかをわかりやすく簡潔に書きました。

林野庁に決めた理由	小さい頃から自然が好きで、その自然のために働くことができることや行政系でも技術系でも関係なく、現場で活躍できることに魅力に感じました。また国有林野の管理経営により災害対策や環境保全、木材の活用など、多くの面で社会に貢献できること、職員の方々の人柄などが決め手となりました。
-----------	--

後輩へのアドバイス	学部勉強も忙しく大変でしたが、それもまたいい経験になったと思いました。公務員試験を楽しもうという気持ちで臨むと少し楽かもしれません。業務説明会などの情報は見逃さないようにホームページやsnsを定期的に確認した方がいいと思います。公務員試験はとても長いので、途中で疲れてくることがあると思います。時には息抜きをしたり、丸一日したいように過ごす日を作ったりして、最後まで乗り切れるように頑張ってください。
-----------	--

学年	専門学校2年	試験区分	行政
専攻		併願先	検疫所
官庁訪問先	森林管理局		
1次試験の勉強方法			
基礎能力試験	学習範囲が広いため、力を入れる分野を絞って学習を進めました。勉強方法は、主に専門学校のテキストを用いました。数的処理や文章理解が得点源になるので特に力を入れました。理解に時間がかかる分野もありますが、その答えになる道筋を意識して繰り返して解くことで速度や正確性が向上しました。時事の範囲は生活の中でニュースや新聞から情報を取り入れるように心がけました。特に環境問題や政治分野の内容は業務にあたる上でも活かすことができると感じ、注目していました。		
専門試験・専門記述試験	専門試験の対策では、出題範囲の広さを踏まえ、早い段階で全体像を把握するように努めました。特に行政区分では法律や経済など多岐にわたる科目が問われるため、科目ごとに優先順位を決めて計画的に学習を進めました。勉強方法は教養試験と同様に専門学校のテキストや公務員試験の過去問を繰り返して解きました。全体を通して、過去問演習を重ねることで出題傾向を分析して苦手分野の対策をすることが得点につながると感じました。		

官庁訪問・採用面接の雰囲気、対策や注意点	
官庁訪問(採用面接以外の事前面談なども含め1日を通して)	官庁訪問は1日目の午後に参加し、2時間程度で終了しました。参加人数は5人で初めに全体で業務説明をしていただき、その後個別面接の進みました。待ち時間は業務で用いる機械や図面を見させていただきました。初日の参加で緊張していましたが、職員の方々や他の受験生の穏やかな雰囲気ですぐに焦ることなどなく、のびのびと参加することができました。職員の方に直接質問できる機会でもあるので、面接する上での悩みを聞いたり質問を積極的にすることをお勧めします。
採用面接	面接官は3人で事前に提出していた面接カードを基に質問されました。所要時間は20分程度でした。面接カードに書いていたことを素直に熱意を持って伝えることが重要だと感じました。初めは緊張しましたが、入退室や姿勢を意識して誠実さをアピールし穏やかに進めることで次第に緊張がほぐれていくと思います。
面接カード(履歴書)の書き方	短い文章の中にいかに自分の熱意を込めるかが重要だと感じます。簡潔に書くことで、面接の際に質問される点をあらかじめ予想することができると感じます。入庁した際にどのような業務に携わりたいかを簡潔に書きました。大学に進学していないため卒論の欄は空白で提出しました。

林野庁に決めた理由	幼少期から自然が好きで、日本の豊かな自然を守る仕事がしたいと考えていました。長期的な視点を持ち、環境保全や資源循環といった専門的な業務に携わることができる点に魅力を感じました。国有林を管理しながら自然や地域の人の関わりを大切にして、仕事ができる点に惹かれました。
-----------	---

後輩へのアドバイス	私自身、大学に進学していない中での大卒程度区分の試験で緊張や不安もありましたが、自分が勉強してきたことや、林野庁で働きたいという気持ちを信じて就職活動に臨むことが大切だと感じました。内定をつかむまでの意欲やモチベーションを維持するためにも、できる限り職場訪問や説明会に参加して業務についての理解を深めることをお勧めします。
-----------	---

学年	既卒	試験区分	行政
専攻	法学	併願先	法務局
官庁訪問先	森林管理局		

1次試験の勉強方法

基礎能力試験	数学が苦手であったため、数的推理や判断推理に力を入れて取り組みました。過去問を何周も繰り返し解き、間違えた問題がわかるようにマークしました。また、時事問題では時事対策用のテキストを購入しその1冊を2周ほど読みこみました。
専門試験・専門記述試験	ミクロ・マクロ経済学が苦手であったため正答率が半分以上になるよう過去問を解きながら、得意である法律系の科目が得点源にすることができるよう学習する時間を計画して上手く配分を決めながら勉強を行いました。とにかく過去問を解きまくりました。

官庁訪問・採用面接の雰囲気、対策や注意点

官庁訪問(採用面接以外の事前面談なども含め1日を通して)	官庁訪問は初めに30分ほど業務説明を受け、事前面談後に採用面接という順番でした。事前面談では気になっていることやわからないところなどを質問することができたため、緊張をほぐしながら採用面接に望むことができました。
採用面接	面接カードに書かれたことから質問がなされるという一般的な面接内容でした。雰囲気も明るいものでしたが、緊張はしました。緊張しながらも主張したいことが言えるように練習は普段からやっておくことをお勧めします。
面接カード(履歴書)の書き方	書きたい内容が多かったため、エクセルに入力しながら何度も文字数を絞りコンパクトにまとめることが難しいと感じました。内容が簡潔で分かりやすく、かつ文字が読みやすいように文字の大きさを工夫しました。事前に自分自身をよく分析しておくことでアピールがしやすくなると思うので普段の生活から振り返りをしておくと思えば助けになると思います。

林野庁に決めた理由	近くに山がある場所に住んでいたため森林についても身近な環境に身を置きながら生活する中で自然を守ることができる仕事に就きたいと考えようになったためです。また、法律についての知識を活かしながら働くことができるという点に魅力を感じたことも林野庁に決めた一つの理由になります。
-----------	--

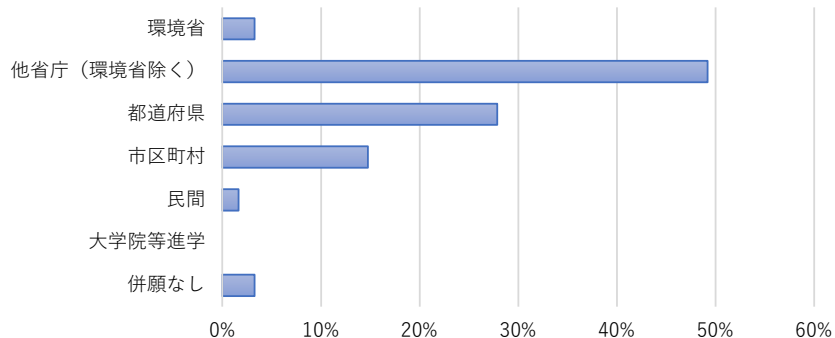
後輩へのアドバイス	公務員試験は内定をいただくまで長く厳しい道のりだと思います。私自身も何度も挫折し逃げ出したくなるような精神状態になりました。しかし、自分だけがこの思いをしているわけではないため、同じく公務員試験の合格を目指す周りの方々と相談しながら不安を和らげてストレスを解消しながら地道に取り組むことで結果が結びついてくると思います。
-----------	--

(付録) 2025年度一般職（大卒程度）内定者の採用関連データ

併願先

※内定者のうち回答があった者のみの集計データです。

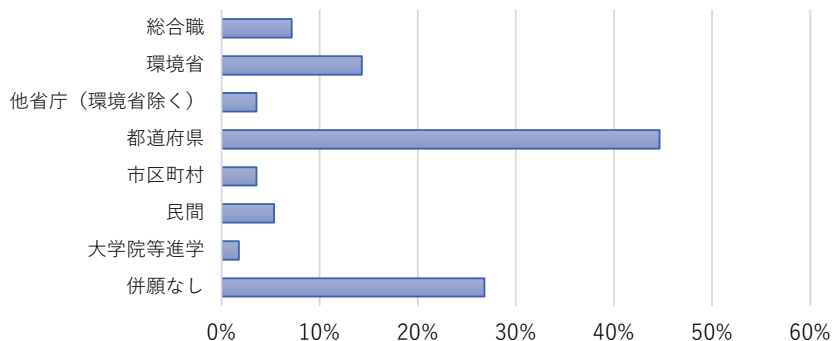
併願状況（行政区分）



他省庁と併願している方が5割近くいます。都道府県に対しては3割近い方が併願しています。

技術系区分の方に比べると幅広く併願しており、国家公務員で様々な省庁を併願している方が多い傾向にあります。

併願状況（技術系区分）

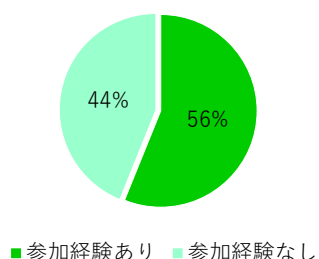


全体の半数近くが都道府県庁、2割近くの方が環境省に併願しています。

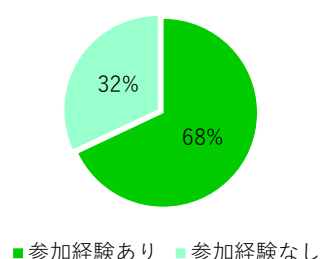
既卒者を中心に、併願なし（林野庁のみを受験）の方も3割近くいます。

業務説明会の参加状況

試験区分：行政



試験区分：技術系

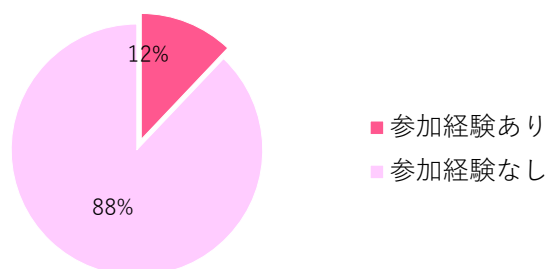


人事院や大学、林野庁等主催で行われている業務説明会は、参加が必須ではなく、もちろん、選考に影響ありません。

しかし、林野庁について職員から直接話を聞ける機会ですので、是非積極的にご参加ください。

インターンシップの参加状況

内定者全体



インターンシップに参加していない内定者が多いですが、実際に職場の業務を体験することができる貴重な機会です。各森林管理局署で実施していますので、是非ご参加ください。

みなさんの参加を心よりお待ちしております。



森林整備



木材利用



災害対策



国際協力



環境教育



鳥獣害対策



特用林産物



木材生産



山村振興



人材育成